

高橋まさかず 市長活動報告

VOL.11

■発行日：2024年1月
■発行元：高橋まさかず後援会



秦野を変える 実現力。

「共働き子育てしやすい街ランキング」
秦野市が全国20位・神奈川県内2位の評価
日本経済新聞（令和5年12月発表）



二期目の折り返し点に立って

明けましておめでとうございます。皆様には、希望にあふれた新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。また、日頃より市政運営にご理解ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。二期目の折り返し点に立ち、物価高騰対策をはじめとする多くの課題に対して、これまで以上に積極果敢に取り組んでいく決意を新たにしているところです。

この数年間は、百年に一度ともいわれる新型コロナウイルスへの対応に追われ、私たちの生活や事業活動に大きな制約と影響をもたらしました。この難局は、社会全体に従来とは大きく異なる変革をもたらす契機ともなり、「デジタル化の推進」はその典型例ともいえます。この機会に、行政の効率化のさらなる推進、教育のデジタル化による教師が子供たちと向き合う時間を確保するなど、なお一層教育水準の改善・向上に向けた取り組みを進めてまいります。

市長就任以来、「5つの誓い」として目標に掲げてきま

した「中学校給食の完全実施」は、実現から2年が経過し、安全でおいしい生徒が喜ぶ給食として定着しています。また、8年越しの市民の悲願であった「産科有床診療所の開設」は、昨年11月13日、アクアベルクリニックの開院により実現しました。今後は、出産だけでなく産後ケアなどさらに充実した支援ができるように努めてまいります。

引き続き、令和9年の新東名全線開通・秦野丹沢サービスエリア開設を見据えながら、活力あふれる住み良いまちづくりに向けた取り組みを進め、秦野市の持てる力を最大限活用し、未来への展望を切り開いてまいります。

本年が、皆様にとって、夢と希望にあふれる輝かしい年となりますことを心から祈念するとともに、市政に対する変わらぬご指導ご鞭撻をお願い申し上げて、新年にあたっての挨拶といたします。

秦野市長 高橋 昌和

HAPPY NEW YEAR 2024



未来に続く故郷・秦野 そして若者に期待すること

後援会員の皆様、市民の皆様、明けましておめでとうございます。日頃から高橋まさかず後援会に温かなご支援、ご指導を賜り感謝申し上げます。

高橋市長は、市政の運営の基本として「子育て」・「教育水準の向上」を重要課題と設定し取り組んできました。その具体的な課題が、中学校給食の実施と産婦人科の開院であります。この2つの課題の実現は、当初の「5つの誓い」を達成したものとして大いに評価して頂けると思います。

また、近年若者の社会参加を取り上げる動きの中で、18歳からの選挙権の実施運用に伴い高等学校では「シチズンシップ教育」が取上げられています。「シチズンシップ教育」とは、民主国家の一員としての社会的・倫理的な自覚を持ち、地域社会への参加を促進し、自分がどのような行動がとれるかを考えていくことにあります。是非、若者の政治参加が進み、社会の変革・改善が時代に適したものになっていくことを願うものです。

高橋市長のもと暮らしやすい秦野のまちづくりが、着実に進展しますよう皆様のご理解とご協力をなお一層御願ひ申し上げます。

本年が皆様にとり健康で実り多き一年となりますよう心よりお祈り申し上げます、新年にあたってのご挨拶とさせていただきます。

高橋まさかず後援会 会長 三杉 克篤

悲願の“産科クリニック”が開院！



アクアベルクリニック

昨年11月13日、市保健福祉センターから国道246号線に向かう左手（西側）に、待望久しかった「“お産のできる産婦人科”アクアベルクリニック」がオープンし、再び市内で分娩できる環境が整いました。

平成27年（2015年）に秦野赤十字病院が分娩業務を休止したことを受け、これまで業務再開に向けて関係機関等へ様々な働きかけを行ってきました。同時に、安心して妊娠・出産でき、秦野で子育てして良かったと思える環境づくりを推進するため、産後ケアや小児医療費助成の充実といった、妊娠・出産・育児への切れ目のない支援策の充実に取り組んできました。

しかし、子育て支援の一丁目一番地となる分娩は、全国的な産科医不足等により市内での分娩再開には至らない中、昨年3月の市内唯一の産科有床診療所の分娩休止は、市民にとっても大変残念なお知らせでした。

こうした秦野市の状況に関心をお寄せいただいたのが、愛知県を拠点に、産科20施設を運営されている「医療法人 葵鐘会（きしょうかい）」でした。市長として同法人の山下守理事長に直接お会いし、産科再開が秦野市民の悲願であり、8年越しの解決すべき最優先課題であること、是非とも秦野市内で開院され、市の子育て支援策の一翼を担っていただきたいということらを率直にお伝えしたところ、理事長からは、「医療はプロの我々に任せてほしい。進出の環境整備は市長にお願いしたい」とのお話をいただくことができました。その場でお互いの目指す方向が確認できたことで、ただちに産科有床診療所の開設に向けて、具体的に動き出すこととなりました。

計画から開業まで1年に満たない非常に短い期間での事業計画であったことから、市としては、市議会と協議しながら、用地の確保や医師会等関係機関との調整、建設費補助等の最大限の支援を取りまとめる一方で、医療法人 葵鐘会も、診療体制の構築や開業手続き等に迅速な対応をしていただき、秦野市民悲願の分娩再開の実現に至りました。

さらに、開院した「アクアベルクリニック」では、出産だけではなく、産後ケア、乳児の発育発達や女性の健康課題等のサポート体制にも対応するとの申し出をいただき、医療法人 葵鐘会とは、昨年4月19日に「女性と子どもが住みやすいまちづくり」のための連携協定を締結しました。市内で安心して出産できる場所ができたことを大変誇らしく思うと同時に、切れ目のない子育て支援の本格的な取り組みが本番となります。市としても、同クリニックに近い保健福祉センター内にある「はだの子育て応援センター “はぐるーむ”」との連携により、安心して「産み」「育てる」ことができる環境整備に努めてまいります。



共働き子育てしやすい街！

昨年12月、日本経済新聞が発表した「共働き子育てしやすい街2023年ランキング」で、秦野市が全国180都市の中で上位20位（県内第2位）にランクされました。

全国屈指の 森林観光都市を目指して！

秦野市北側の表丹沢魅力づくりと、市域南側の小田急線4駅周辺にぎわい創造、そして、駅と駅の間にある弘法山や震生湖、頭高山といった地域資源の活用を一体的に進めることで、全国屈指の森林観光都市を目指す取り組みを進めています。

表丹沢の魅力づくり

秦野市の北側に広がる丹沢の山並みは、多くの登山愛好家に古くから「表丹沢」の名称で親しまれ、市民にとって自慢の地域資源です。都心からでも高速道路や鉄道を利用して1時間ほどでアクセスできるため、県内外から訪れる方にも秦野のシンボルとして知られています。

この表丹沢エリアは、県立秦野戸川公園をはじめ、自然の癒しを求める方々から需要の高まる森林セラピーや、東京オリンピックでアメリカ代表選手の直前練習場となった「はだの丹沢クライミングパーク」、登頂の醍醐味を味わえる塔ノ岳、秦野での生活を格安で体験できる移住お試し住宅など、様々な場面で心から楽しめる魅力的なスポットであふれています。こうしたスポットを線に、そして面にして楽しんでもらえるよう、エリア内の回遊性や滞在性を高めるための仕組みづくりを進めることが、「都心から近い山岳・里山アクティビティの聖地」としてのブランド化につながると考えています。さらに、「表丹沢総合ホーム



秦野戸川公園

ページ」では、エリア内の情報を手軽に、そしてワンストップで確認することで、来訪のきっかけや新たな発見につなげ、表丹沢ファンの獲得につなげていきます。

一昨年、表丹沢の略称であるとともに、面白い、楽しいといった語感を盛り込んだ「OMOTAN」というロゴマークを作成しました。ワクワクが止まらない、誰が来ても、そして何度来ても、それぞれにとっての「本物の魅力」を見つけることができる、そんなエリアとなるよう表丹沢の魅力づくりに取り組んでいきます。

小田急4駅のにぎわい創造

秦野市にある4つの小田急線の駅では、それぞれ南北の駅前広場の整備が完了したことで、利用者が気持ちよく通勤・通学などに使ってもらえる環境が整いました。これからは、各駅が持つそれぞれの特徴を生かしながら、周辺のにぎわいを創り出す取り組みを進めていく必要があります。

秦野駅は、市の中心市街地を形成していて、環境省の名水百選である秦野盆地湧水群をはじめ、商業の面では古くからの百年企業が軒を連ねる、まさに、「歴史と名水に育まれた中心市街地」となっています。**渋沢駅**は、丹沢の登山口である県立秦野戸川公園の近くにあり、小田急線で最も標高の高い駅として、過去に「丹沢高原駅」への改称も検討されるなど、丹沢登山のイメージを強く持つ「丹沢登山の玄関口」です。**東海大学前駅**は、その名のとおり駅近くに東海大学があることで、たくさんの学生が街なかを行き交い、駅前はそのような学生たちを迎える飲食店で賑わうといったように、「活気ある笑顔が集う若者のまち」となっています。**鶴巻温泉駅**は、カルシウム含有量が豊富で良質な温泉街を持つ「癒しの天然温泉のまち」です。昨年、将棋の王座戦において、前人未到の八冠独占を実現した藤井聡太王座が、この温泉街にある陣屋旅館で行われたその第1局で敗れるという波乱があったのは記憶に新しい出来事です。



はだのミライラボ

それぞれの駅を持つ「顔」を大切に、「歩いて楽しい、歩いて暮らせるまちづくり」を合言葉に、「小田急4駅周辺にぎわい創造に向けた中心市街地活性化推進方針」を策定し、地域の皆さんと一体となって、「小田急線4駅周辺のにぎわい創造」を進めています。

特に、**秦野駅**北口周辺では、令和8年度の供用開始に向けて拡幅工事が進む県道705号周辺の地域の皆さんと知恵を絞りながら、「秦野駅北口周辺まちづくりビジョン」を策定し、20年後のこのまちの将来像を描き、皆で共有しています。昨年は、対象地区における理想的な公共空間の在り方を検討するための社会実験「はだのミライラボ」を開催するなど、この地域の特色である名水と歴史がつながる未来「しなやかな街なか暮らし」を合言葉に、にぎわい創出の取り組みを強く進めていきます。

高橋まさかず市長活動報告



〔7月10日〕秦野市が研究・開発を支援している、次世代交通システム「zipparの自走式ロープウェー」を黒岩神奈川県知事が視察



〔7月29日〕「堀山下納涼大会」
新型コロナウイルスが5月に「5類感染症」になり、各地域でイベントが復活



〔8月5日〕「秦野名水復活20周年記念式典」
2015年に環境省が開催した「名水100選選抜総選挙」の「おいさ」部門で「おいしい秦野の水・丹沢の雫」が第1位を獲得



〔9月2日〕「震生湖誕生100周年記念式典」
1923年に発生した関東大震災で誕生した自然湖



〔9月23.24日〕「第76回秦野たばこ祭」今年は、4年ぶりに制限を設けない通常開催で、市内外から多くの人々が訪れ、盛大に開催されました



〔10月20日〕韓国の「海外友好都市 坡州市」を訪問、親善を深めました



〔11月11日〕「上小学創立150周年記念式典」本町小学校・東小学校も150周年を迎えました



〔11月26日〕御嶽神社(沼代)で開催された「とぶろく祭」秦野市は2021年11月30日付けで県内初の「とぶろく特区」に認定

【高橋まさかず後援会事務所】

〒257-0012 秦野市西大竹134番地

令和6年1月 活動報告第11号

Tel/Fax.0463-68-3939



高橋まさかず

takahashi-m.jp